

平成25年度JAQG活動報告会について

1. はじめに

JAQGは、航空宇宙業界における国際的な品質管理に関する標準を制定する組織であるIAQG（International Aerospace Quality Group）に対応し、品質に関する国際統一規格の制定、認証制度の確立を図ることにより、品質改善とコスト削減を行うことを目的として2001年当工業会（SJAC）内に設置された組織である。2001年当初79社で設立した会員数も、現在、285社にのぼり、多くの方のご指導を受けながら活動を展開している。毎年JAQGは活動内容及び成果をJAQGメンバーに報告し、かつ、メンバー各位からのご意見（アンケート結果等）を活動に反映させる機会の一つとして、活動報告会を開催している。

ここでは、今年2月に開催されたJAQG活動報告会につき紹介する。

2. 報告会の背景、概要

航空宇宙分野の認証制度の運用で重要な4規格（*1参照）の1つである新認証基準（9104-1）が2012年2月に発行され、各関連機関（認定

機関、認証機関等）は9104-1への移行を2013年6月末までに完了した。残りの3規格についても早期の改正に向け、検討が進められている。今回の報告会の目的は、例年の活動成果の周知に加え、関連情報提供により認証制度の新基準移行後の運用を円滑にすることと、後述の特別案件の成果の国内普及である。

特別案件としては、JAQGが主体的に活動を進めている「強固な品質マネジメントシステム構築の検討」を報告した。これは、日本の航空宇宙業界において、品質に係わる事案が発生したことを機会に、再発防止を含め「品質マネジメントシステム」をより強固にするための方策を提言するものである。

- *1) 9104-1：航空、宇宙及び防衛分野の品質マネジメントシステム 認証プログラムに対する要求事項
- 9104-2：航空宇宙品質マネジメントシステム審査登録制度のオーバーサイト要求事項
- 9104-3：航空宇宙審査員の力量及び研修コースに関する要求事項
- 9101：品質マネジメントシステム 航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する審査要求事項



JAQG活動報告（全般）



会場全景

報告会の様子（名古屋会場）



会場全景



IAQG/APAQG活動報告

報告会の様子（東京会場）

3. 報告会の内容

今回の報告会の参加者数、参加組織数は以下の通りである。

名古屋会場（2/3開催）

参加者数：105名、参加組織数：63

東京会場（2/5開催）

参加者数：123名、参加組織数：79

報告会での報告内容（概略）は以下の通りである。（報告順。（ ）内は報告者）

なお、報告会当日の配付資料のPDFファイル版は、JAQGメンバー専用ウェブサイトに掲載されている。

詳細は以下を参照されたい。

リンク先：<http://sjac-jaqg.kir.jp/modules/smartsection/item.php?itemid=433>

(1) IAQG/APAQG活動報告

（寺境弘之/APAQGセクターリーダー（MHI））

IAQG/APAQG及びJAQG活動との相関関係を交え、IAQGに関しては、設立経緯及びミッションに加え、業界規格である9100シリーズ規格の制定とその認証構築・維持を中心とした活動概要、2008年のIAQG横浜会議で合意

された5年間の活動ビジョンの活動成果と今後のIAQG活動戦略の検討状況及びIAQG法人化の動向等が、APAQGに関しては、新規メンバーの加盟、2013年9月APAQGシンガポール会議での航空当局、業界団体を招き開催したサプライヤフォーラムの概要等が報告された。

(2) JAQG活動報告（福井將喜幹事長（KHI））

JAQG活動状況全般が報告された。活動総括、今後の課題は以下の通りである。

H25年度JAQG活動総括

- ・強固な品質マネジメントシステム構築の検討：ガイダンス文書6点中4点をWeb上で公開すると共に、9100補足文書SJAC 9068規格を発行し、JAQGメンバーに展開した
- ・各WG活動：策定した中長期戦略に基づき活動推進中
- ・活動説明会の開催：従来実施している関東地区、中部地区に加え、関西地区においても開催し、成功裏に終了

今後の課題

- ・強固な品質マネジメントシステム構築の

推進：発行したガイダンス文書について
APAQG内への展開、IAQGへのインプ
ットを推進する

- ・ JAQG活動戦略（ロードマップ及びアロー
チャート）のタイムリーな見直しを行う
と共に戦略検討委員会及び各WGにおけ
る活動展開を促進
- ・ 国内のステークホルダーとの連携をより
強化
- ・ リソースの拡充（JAQG WG人員、IAQG
対応人員、JIS Q 9100認証審査員等）

(3) 強固な品質マネジメントシステム構築の
検討（福井将喜戦略検討委員長（KHI））
本報告では、活動の背景、活動スケジュール、
主要改善事項、活動のアウトプット、今後
の活動方針などが示された。活動のアウト
プットは、3つの分野（9100規格、ガイダ
ンス文書、9100認証スキーム（認証機関
審査））に盛り込むことで進めており、各
分野の進捗状況は以下の通りである。

9100規格

国内向けのJIS Q 9100補足としてSJAC
9068規格を発行（2013年11月）し、JAQG
メンバーに展開した。その内容を9100規
格の次期改正（2016年予定）に反映すべ
く、IAQGに提言する。

ガイダンス文書

開発すべきガイダンス文書6文書のうち、
プライオリティーの高い4文書（コンプラ
イアンス教育、飛行安全教育、現場から
の意見吸い上げ手順、作業指示書の取扱）
については、Web上で一般公開（2013年
8月）した。残る2文書（作業移管の管
理、リスクマネジメントを含んだ設計・開
発の進め方）については、年度末（2014
年3月）にJAQGメンバー向けにWeb上
での公開を目指す。また、APAQG内への
展開、IAQGに

も適時情報をインプットする。

9100認証スキーム

認証スキームを補完するIAQG文書
（IAQG OPMT Resolution Log）に反映済
9104-1次期改正に反映すべくIAQGに提
言する。

(4) 航空宇宙 品質マネジメントシステム
認証制度の現況報告（筒井俊一JPMC議
長（IHI））
既に移行が完了した9104-1の改正内容
の説明、改正作業中である9104-2の改
正内容の説明、及び同じく改正作業中
の9104-3の改正内容について報告され
た。9104-2は2014年度第1四半期に
改正、4ヵ月以内にSJAC9104-2Aを
発行予定、また9104-3Aは2014年下
期に発行予定である。次にJPMC（航
空宇宙審査登録管理委員会）の現在の
活動と今後の取り組みが報告された。

また、認証機関によるJIS Q 9100
審査において必須の審査要求事項とな
る9101規格（日本語版：SJAC 9101）
が改正予定であり、改正内容について
報告された。規格は9101E対応審査
員研修コース開始に合わせて発行予定
である。

(5) ワーキンググループ等の活動報告

（各WG主査/各WGメンバー）

代表的なワーキンググループ等の今年
度のトピックスを中心に報告を実施し
た。

(a) 規格検討WG活動報告

（河本正博主査（MHI）/白井達矢副
主査（KHI）/大野純平（MHI））

WG活動全般として、IAQG規格開
発への対応を含む、品質関連規格の
検討／作成・発行状況、規格の理解
促進のための展開支援文書作成状
況、国内独自規格として作成した
上述のSJAC 9068規格への対応、
及びSJAC規格の電子出版（PDF形
式ファイル）

CD-ROMで販売)の検討状況について報告された。また、今回は、9100規格の改正状況、9110規格の改正概要及び9102規格の改正状況について、以下のとおり報告された。(*2)

- *2) 9100：品質マネジメントシステム－航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項
- 9110：品質マネジメントシステム－航空分野の整備組織に対する要求事項
- 9102：航空宇宙 初回製品検査要求事項

・ 9100規格の改正状況

(河本正博主査 (MHI))

9100規格は、ISO 9001次期改正動向を踏まえ、2016年に次期改正版を発行する目標でIAQGにより改正活動が進められている。昨年収集されたウェブサーベイ／各セクター／ステークホルダーからのコメントに対するレビュー処置結果(昨年10月のIAQG会議)を踏まえ、次期改正版で追加／強化する事項[安全(製品安全／飛行安全)とヒューマンファクターズ、リスク／予防処置、模倣品(Counterfeit Parts)防止等]について、規格検討WGメンバーからも参画しているIAQG 9100チーム内のサブチームで検討中であることが報告された。2014年内には、ISO 9001 DIS (Draft International Standard)をベースとして、コメントレビュー処置／サブチーム活動結果を反映した作業用ドラフトが作成される予定であり、継続して規格検討WGも対応し、レビュー／意見具申を積極的に実施する計画であることが報告された。

・ 9110規格の改正概要

(白井達矢副主査 (KHI))

9110規格は、航空分野の整備業務を実施する組織向けに、9100規格を基に一部の要求事項の追加等を行ったQMS要求事

項である。IAQGの9110規格がEASA(欧州航空安全局)等ステークホルダーからのコメントを反映して改正されたことを受けて、対応する国内規格であるSJAC 9110Aを昨年8月に改正発行したことが報告された。9100規格にはない9110規格に特徴的な事項(安全方針／安全目標、模倣品／不正品の疑いがある部品、ヒューマンファクターズ等)に関する追加要求事項)の他、今回の改正の概要として、安全に関する要求事項の意図明確化を行ったこと等が報告された。

・ 9102規格の改正状況

(大野純平 9102サブチームリーダー(MHI))

9102規格は、2011年5月にIAQGで改正活動が開始され、2013年11月に漸くその原案がまとめられた。なお、この改正活動は、それに先立ち実施された現行規格へのフィードバックコメントを基に、国内からも2名が参加したIAQGの改正チームによって検討され実施された。また、国内においても、規格検討WG内に9102サブチームを設置し、また、IAQGでのBallot投票に合わせ、国内関係組織から意見を募集するなど、国内の意見を幅広く収集し、改正内容についての提言をIAQGへ実施してきたことが報告された。現在は、SJAC規格(SJAC 9102B)の原案を作成中であり、IAQGでの規格発行に合わせ発行予定であることが報告された。

(b) SCMHWG活動報告

(水野努主査 (MHI))

SCMH(Supply Chain Management Handbook)は、IAQG戦略の重要課題の一つとなっているもので、サプライヤのため

のガイダンス文書、トレーニング資料、ベストプラクティスを集めたものである。最初に、今年度のIAQG SCMH文書作成状況及び和訳文書の作成状況を報告された。JAQG会員向けに「9103（キー特性）ガイダンス資料」「契約要求事項のレビュー及び管理」の和訳文書を公開したことを紹介した。強固なQMS構築に関する文書については、「作業移管の管理」及び「設計開発」に関するガイダンス文書を3月末に公開する予定である。

(c) 特殊工程検討WG活動報告

(堀田彰彦主査 (KHI))

Nadcap監査基準AC日英対訳版の公開状況、PRI技術委員会やSAE (Society of Automotive Engineers) への意見提言活動、3月に名古屋で開催されるNadcapシンポジウム (PRI日本事務所主催) の支援などが報告された。今年度からの新規活動であるSAEへの意見提言活動では、主にAMS熱処理スペックへの意見提言活動を実施しているが、これまで6件の日本の意見が反映される予定であることが紹介された。

(d) ウェブ検討WG活動報告

(菅野義就主査 (JAQG事務局))

JAQGパブリックウェブサイトの全面リニューアル (2013年9月)、JAQGメンバー専用ウェブサイトの改修 (2013年11月) についての概要が紹介された。また、次年度から、WG名称を「コミュニケーションWG」に変更し、従来の活動に加え、より広範にコミュニケーションの改善を目指した活動を展開する予定であることが報告された。

(e) スペースフォーラム活動報告

(澁谷典明主査 (MHI))

スペースフォーラム活動方針及び中・長期活動戦略アローチャートに基づく活動状況が報告された。

今年度の活動概要としては、IAQGスペースフォーラムにおける9100次期改正に対する宇宙業界からの提案やSWOT分析に基づく強み／弱みや機会／脅威の分析を含む、IAQG/APAQG/JAQGの各スペースフォーラムで協議された主要トピックスが報告された。

(f) 要員能力検討チーム活動報告

(小薬正幸主査 (IHI))

ヒューマンファクター、力量管理について報告された。

・ヒューマンファクター

IAQGの活動に参加しながら、ヒューマンファクター (人的要因) に関する背景、主要手法、航空当局要求などを含んだガイダンス文書を作成する活動を行っている。ガイダンス文書は最終ドラフトが完成し、間もなくIAQGウェブサイトにも公開される見込みであること、JAQG要員能力検討WGにおいてもその翻訳活動を開始したことなどが報告された。

・力量管理

IAQGの活動に参加しながら、航空・宇宙及び防衛分野の品質関連要員に必要とされる全世界共通の“BoK” (Body of Knowledge、知識体系) を開発する活動を行っている。BoK作成に関連する各文書の作成状況などが報告された。

4. おわりに

以上、今年度のJAQG活動報告会につき内容を紹介した。IAQGは、世界共通の航空、

宇宙及び防衛分野の組織に対する品質マネジメントシステム規格（9100規格）を初めとする関連規格及びSCMH等のガイドライン文書の制定に加え、“On Time, On-Quality Delivery”を効率的に達成することを目標に活動を展開しており、現在、航空宇宙の品質関連分野をリードする唯一の国際的な組織である。

今回、特別案件で、「強固な品質マネジメント

システム構築の検討」を報告した。本活動成果は、JAQGメンバーから有用であるとの評価を頂いた（本報告会アンケート結果）。今後は、JAQG発の本活動成果を国内にさらに普及させると共に、APAQG、IAQGへ積極的に提言する所存である。皆様のご指導、ご鞭撻を切にお願いする。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター（JAQG）事務局 部長 菅野 義就〕